

## 民生常任委員会行政視察（概要）

### 1 視察日

平成29年5月17日（水）～18日（木）

### 2 視察項目（視察都市）

- ・子どもの貧困対策について（東京都足立区）
- ・医療体制強化事業について（茨城県土浦市）

### 3 参加委員

委員長：大野幾子、副委員長：畑中 剛

委員：塚 理、小林美智子、安孫子浩子、篠原一代、辰見 登

### 4 調査概要

足立区では、平成26年8月、「子ども貧困対策本部」を設置するとともに、平成27年度には「あだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」を策定した。その推進体制は、対策本部を政策経営部に設置することで予算編成における横断的な総合調整や庁内全体の密な連携を可能にするもので、貧困の連鎖の予防、抑制を図っている。また、各学校をプラットフォームとして貧困の連鎖リスクの高い家庭に対する迅速なアプローチ等にも力を注いでおり、あらゆるライフステージで、子どもを見守り、居場所を提供する取り組みを進めている。

土浦市は、市内に2次・3次救急を受け入れる2カ所の総合病院を有する。平成24年から、霞ヶ浦医療センター内に筑波大学附属病院土浦地域臨床教育ステーションを設立し、寄附講座を開設することで、医師の確保を初め地域医療の充実を目指した。開設当時は全国でも異例の取り組みであったが、茨城県南部地域における地域医療の確保と再構築を目的とした取り組みとして、診療科目数や医師数、受入患者数において大きな成果を上げている。



### 5 委員長所感

足立区での取り組みを視察して、本市でもスタートを切ったばかりの子ども・若者支援事業における事業内容が適切かどうか、改めて見直していくべきと考えた。子ども一人一人に学ぶ力、生きる力、夢を叶える力を養うことこそが、大人の役目であり、政治の責任だと改めて強く感じさせてもらった貴重な視察であった。

土浦市の取り組みについて、寄附講座実施の効果は大変素晴らしいものとなっており、それを実現させた地域住民、議会、行政の医療体制後退への危機感や事業実現までのスピード感溢れる熱心な対応に感銘を受けた。